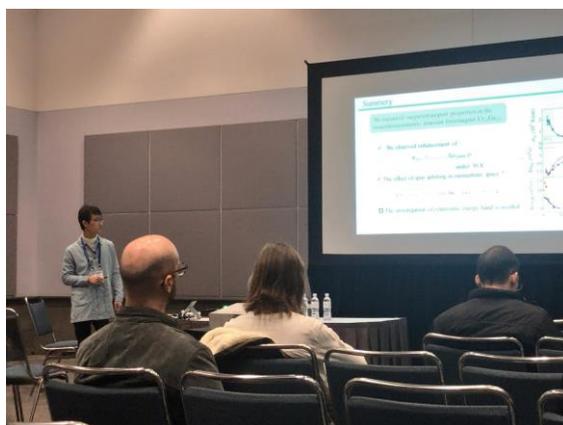


American Physical Society March Meeting 2018 参加報告書

相関基礎科学系修士課程2年 蔣 男（小野瀬研究室）

「博士・修士課程学生のための国際研究集会渡航助成」をいただき、2018年3月5日から3月9日にかけてアメリカのロサンゼルスで開催されたアメリカ物理学会2018（American Physical Society March Meeting 2018）に参加した。この学会は世界各国から物理研究者が集まる世界最大の物性物理学会である。量子エレクトロニクスから固体物性、生物物理まで、素核以外の物理学者が一箇所に集まって活発に議論し合う会議であった。日本の学会とは異なり、会場のいたるところでお互いに議論しており、刺激的な経験となった。

そこで私は、「Magnetotransport properties in the noncentrosymmetric ferromagnet $\text{Cr}_{11}\text{Ge}_{19}$ 」というタイトルで口頭発表を行った。近年の物性物理学で注目されている空間反転対称性が破れた磁性体を扱い、磁気輸送特性を評価したところ特異な振る舞いを示したという内容で、国際誌 *Physical Review B* にも掲載されている結果を発表した。関心の高い内容だったのか、最後まで興味を持って聞いていただけたようであった。



写真：口頭発表の時の様子

また、自分の発表だけでなく、他の方の発表も5日間朝から夕方まで多くの発表を聞くことができた。セッションによっては部屋から人があふれるものもあり、世界の流行の物理を体感した。自分の研究に対するモチベーションも上がった。

以上のように今回の学会は物理の様々な分野に関する知見とやる気を持ち帰ることができた貴重な機会であった。改めてこのような機会を可能にしてくれた助成に感謝したいと思います。